

留萌市港湾整備事業経営戦略

団 体 名 : 北海道留萌市

事 業 名 : 留萌市港湾整備事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 2 年度 ~ 令和 11 年度

※複数の港湾を有する事業にあっては、港湾ごとの状況が分かるよう記載すること。

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適（全部適用・一部適用） 非適の区分	非適	事業開始年月日	昭和40年4月1日
職員数	1 人	港（重要港湾等） 湾区	重要港湾
民間活用の状況	ア 民間委託	該当なし	
	イ 指定管理者制度	該当なし	
	ウ PPP・PFI	該当なし	

(2) 使用料体系

※施設区分の中で複数の使用料体系がある場合には、それぞれの内容を分けて記載すること。

施設区分		現行 (a)	前回 (b)	改定率	前々回 (c)	改定率	
使用料区分		(H28年改正)	(H20年改正)	(a/b)%	(H9年改正)	(b/c)%	
港湾施設 用地	専用使用	舗装地	63.80円 (㎡/月)	63.80円 (㎡/月)	— %	53.00円 (㎡/月)	120 %
		未舗装地	53.30円 (㎡/月)	53.30円 (㎡/月)	— %	53.00円 (㎡/月)	101 %
	一般使用 (15日以内)	舗装地	3.61円 (㎡/日)	3.61円 (㎡/日)	— %	3.00円 (㎡/月)	120 %
		未舗装地	3.05円 (㎡/日)	3.05円 (㎡/日)	— %	3.00円 (㎡/月)	102 %
	一般使用 (16日以後)	舗装地	4.77円 (㎡/日)	4.77円 (㎡/日)	— %	4.00円 (㎡/月)	119 %
		未舗装地	4.00円 (㎡/日)	4.00円 (㎡/日)	— %	4.00円 (㎡/月)	— %
船舶給水	10m3 まで	夏期	6,600円	6,600円	— %	4,400円	150 %
		冬期	9,900円	9,900円	— %	6,600円	150 %
	10m3超、 1m3ごとに	夏期	660円	660円	— %	460円	143 %
		冬期	990円	990円	— %	690円	143 %
小麦倉庫	小麦1tにつき	—	121.60円/ t	— %	69.00円/ t	176 %	
	1日につき	7.56円 (㎡/月)	—	— %	—	— %	
	1月につき	219.24円 (㎡/月)	—	— %	—	— %	
引船	3,000 t 未満	—	46,000円/h	— %	42,000円/h	110 %	
	5,000 t 未満	55,200円/h	50,400円/h	110 %	46,000円/h	110 %	
	10,000 t 未満	68,100円/h	67,000円/h	102 %	65,000円/h	103 %	
	15,000 t 未満	101,900円/h	101,900円/h	— %	92,000円/h	111 %	
	20,000 t 未満	115,700円/h	114,600円/h	101 %	103,000円/h	111 %	
	25,000 t 未満	132,800円/h	130,700円/h	102 %	120,000円/h	109 %	
	30,000 t 未満	159,300円/h	158,200円/h	101 %	151,000円/h	105 %	
	30,000 t 以上	201,200円/h	199,700円/h	101 %	—	— %	
備考					引船はH14改正		

(3) 現在の経営状況

年間取扱貨物量 ※過去3年度分を記載	R1	1,201,154トン	H30	1,402,072トン	H29	1,364,510トン
年間船舶乗降旅客数 ※過去3年度分を記載	R1	370人	H30	0人	H29	960人
年間使用料収入額 (税込み) ※過去3年度分を記載	R1	56,444,003円	H30	56,740,775円	H29	59,192,594円
経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載	R1	39.7%	H30	41.3%	H29	48.6%
経費回収率 ※過去3年度分を記載	R1	39.7%	H30	41.3%	H29	48.6%
他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載	R1	25.9%	H30	25.6%	H29	25.8%

2. 将来の事業環境

(1) 取扱貨物量等の見通し

留萌港の主要取扱貨物である石炭については、世界的な脱石炭の流れから、取扱量が減少していくものとする。取扱量が安定している原木等の取扱増加に向けた取り組みを進めていく必要がある。

(2) 使用料収入の見通し

港湾施設用地：留萌川河口切替工事に伴う使用が見込まれるが、工事完了後の新たな使用は見通しが立っていない。
船舶給水：入港隻数の減少に伴う給水量の減少が続いている。
小麦倉庫：建物老朽化などによる取扱量の減少から減収が続いていることから、建替えも含めた検討を進める。
引船：石油タンカー隻数は安定していることから、今後も同程度の収入が見込まれる。

使用料の見直しに係る検証を概ね5年毎としているが、道内他重要港湾の使用料と比較検証を行い、必要に応じて料金体系の見直しを図る。

(3) 施設の見通し

施設は全体的に老朽化が進んでいることから、維持管理計画に基づく適切な点検を実施し、計画的に維持管理を行っていく必要がある。

3. 経営の基本方針

利活用促進を図るため、施設の適切な維持管理に努め、経費の節減と使用料収入の増加を目標に施設を運営する。

4. 投資・財政計画（収支計画）

(1) 投資・財政計画（収支計画）：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画（収支計画）の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

港湾施設については、一定の整備が終了し、今後10年以内での投資は予定していないが、今後も適切な維持管理に努め、施設の長寿命化を図る。

② 収支計画のうち財源についての説明

使用料の見直しに係る検証を概ね5年毎としているが、道内他重要港湾の使用料と比較検証を行い、必要に応じて料金体系の見直しを検討する。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

経常経費の節減に努め、収支の均衡を図る。

(3) 投資・財政計画（収支計画）に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※投資・財政計画（収支計画）に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。
 また、(1)において、純損益（法適用）又は実質収支（法非適用）が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュールや必要に応じて経費回収率等の指標に係る目標値を記載すること。

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	—
投資の平準化	—
その他の取組	—

② 今後の財源についての考え方・検討状況

使用料	利用者のニーズを的確に把握し、サービスと施設のあり方を検討し、料金体系の適正化に努める。
企業債	—
繰入金	施設使用者の負担と費用対効果を検証し、赤字額の圧縮に努める。
資産の有効活用等による収入増加の取組	—
その他の取組	—

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	施設管理については、必要最小限の人員で対応しているが、外部委託等についても検討する。
管理運営費	施設の管理運営に必要最小限の人員で対応しているが、更なる節減について検討する。
職員給与費	事業運営に必要最小限の職員配置を行っており、留萌市の給与に関する条例に従っている。
その他の取組	—

5. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	令和11年度までの経営戦略を策定しているが、期間終了前に新たな投資事業が決定した場合や、使用料体系の見直し等があった場合は、適宜経営戦略の更新及び見直しを行う。 期間終了までに大幅な変更がなかった場合においては、令和11年度中に経営戦略の更新及び見直しを行う。
---------------------	---